

# 国士館大 (東京) 2 年ぶり 3 度目の優勝!!

## 第 41 回全日本大学男子選手権大会

標記大会は、市制施行 100 周年記念事業の一環として、南に太平洋、西に三河湾、東に山々をひかえた豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、「創ろうスポーツの町・豊橋」をスローガンとする愛知県豊橋市において開催された。

大会には、全国各地の予選を勝ち抜いた精鋭 32 チームが参加。豊橋市営球場を中心に、4 球場で 3 日間にわたる熱戦が繰り広げられた。

ベスト 4 には、1 回戦を延長タイプレーカーの接戦の末に勝利し、その後は 2 試合連続完封と上り調子の京都産業大 (京都)。

大会屈指の好投手・諸見里を擁し、1 回戦から順当に勝ち上がり、2 年ぶり 3 度目の優勝をめざす国士館大 (東京)。

2 回戦で名門・日本体育大 (東京) をノーヒット・ノーランで倒し、意気上がる神戸学院大 (兵庫)。

強力打線の活躍で打ち勝ってきた東京学院大 (岐阜)。以上の 4 校が「大学日本一」の座をめざし、準決勝で激突した。

平成 18 年 8 月 26 日 (土) ~ 28 日 (月)  
愛知県豊橋市・豊橋市営球場他  
日ノ協記録委員長 山崎 修

個人記録では、第一経済大 (福岡) ・山本慎也投手、早稲田大 (東京) ・吉形大佑投手、神戸学院大 (兵庫) ・小藤透投手がノーヒットノーランを達成。また、日本体育大 (東京) の高橋速水投手が、1 回戦の仙台大 (宮城) 戦で奪三振 20 ・連続奪三振 19 の大会新記録を樹立。最多奪三振記録を 20 年ぶりに、最多連続奪三振記録を 12 年ぶりに塗り替えた。

### 〈準決勝〉

国士館大

1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
									1
									4

京都産業大

(国) ○ 諸見里一坪松

(京) ● 松田一平田

▽ 浦本 (国) 井口 (京)

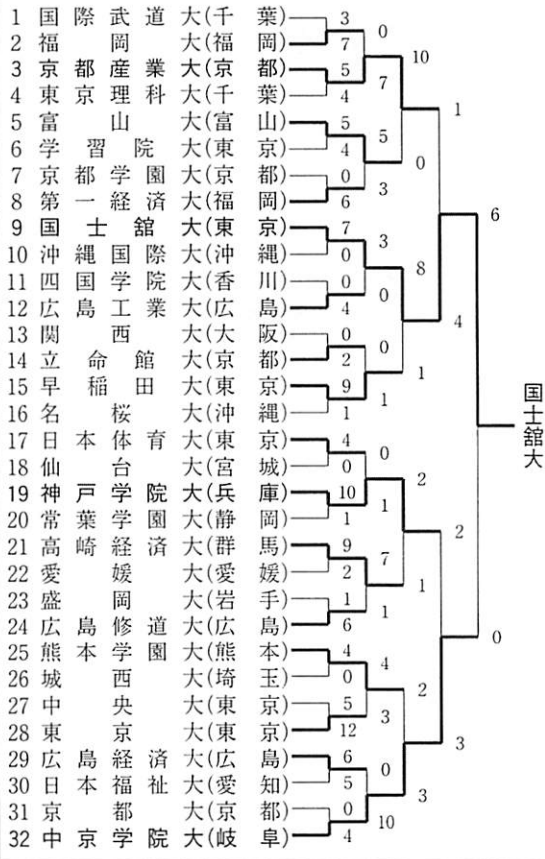
(審) P 中島 1 飯屋 2 鈴木 3 山内

(記) 西沢

先攻の国士館は初回、京産・松田の立ち上がり攻め、2 番・澤田、3 番・安井、4 番・浦本の 3 連打で 1 点を先取。

一方、京産は 4 回裏、一死から 3 番

### 第41回全日本大学男子選手権大会



・井口が左翼線二塁打。この打球の処理を誤る間に三塁まで進み、4番・船越の内野ゴロが野選となり、同点。その後は国士館・諸見里、京産・松田が一步も譲らぬ力投。1-1の同点のまま、延長タイブレーカーにもつれ込んだ。

迎えた10回表、国士館は一死から代打・大嶋の死球で一・二塁とチャンスを広げ、1番・益田の適時打で1点を勝ち越し。二死後、3番・安井、4番・浦本の連打で2点を加え、この回3点を挙げ、勝負を決めた。

京産もその裏、必死の反撃を試みるが、国士館・諸見里の力投の前に三者三振。準決勝で力尽きた。

#### 〈準決勝〉

中京学院大

0	0	0	0	1	0	0	2
1	0	0	0	0	0	0	1
2	3						

神戸学院大

(中) ○坂本―前田

(神) ●小藤―西川

(審) P加藤 1黒木 2長谷 3大平

(記) 酒徳

後攻の神戸学院は初回、中京学院・坂本の立ち上がりを攻め、1番・瀬尾の一・二塁間突破安打を足掛かりに、二死三塁の先制機をつかみ、坂本の暴投で勞せずして先取点。前半は押し氣味に試合を進めた。

#### 〈決勝〉

国士館大

0	0	0	4	0	0	2	6
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0

中京学院大

(国) ○諸見里・鈴木(綯)―坪松

(中) ●川井・坂本―前田

▽目小田澤 (国)

(審) P 飯屋 1山内 2中島 3鈴木

(記) 石原

一方、中京学院は5回表、5番・中西、6番・平山の連打で無死一・二塁とし、7番・片岡のバント安打で満塁。動揺した神戸学院・小藤の暴投で同点に追いついた。

1-1の同点のまま、試合は延長タイブレーカーに入り、迎えた8回表、中京学院はこの回先頭の1番・横田が三塁線へバント安打。この打球の処理を焦った三塁手が一塁へ悪送球し、勝ち越し点を挙げると、途中出場の2番・萩原が手堅く送り、3番・福重のタイムリーでダメ押し。粘る神戸学院を振り切り、初の決勝へ駒を進めた。

一方、神戸はその裏、無死一・三塁から代打・吉田の内野ゴロの間に1点を返したが反撃もここまで。惜しくも決勝進出はならなかった。

で出塁。次打者の内野ゴロで走者が入れ替わり、四球、バント安打などで一死満塁とし、6番・坪松の四球で押し出し。1点を先制すると、二死後、8番・小田澤が三塁線を破る走者一掃の三塁打を放ち、3点を追加。この回一挙4点を挙げ、試合の主導権を握った。さらに7回表には、相手守備の乱れに乗じて一死二・三塁とし、3番・安井の適時打でダメ押しの2点を挙げ、試合を決定づけた。

守っては、エース・諸見里が中京学院打線を寄せつけず、7回裏は代わった鈴木(綯)がキッチリと三者凡退に打ち取り、氣迫のこもった堂々たる試合運びで2年ぶり3度目の優勝を飾った。



優勝を飾った国士館大